

場所		大津波から逃げる / 備えの段階 /	B-1-1 「避難計画・ハザードマップづくり」
日時			B-1-2 「避難路・避難場所の確保」 B-1-3 「津波避難訓練の実施」

		主体					
		自助(県民・事業所など)		共助(自主防災組織・ボランティアなど)		公助(県・関係団体など)	
		誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか
時間軸	備えの段階	県民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難通路のブロック塀から植栽へ変換する(B-2-1)</li> <li>●避難ルート・避難場所を確認する(B-2-1)</li> <li>○避難の経路、場所及び方法の確認</li> <li>●避難訓練に参加する(B-2-1)、年一回以上は住民の義務として参加する</li> <li>○地形などから、津波流路などをあらかじめ知っておく</li> <li>○ハザードマップの、どうしての部分を理解しておく</li> <li>○避難の時に、持参できるものの特定</li> <li>○避難経路、避難場所の確保など普段からシミュレーションをして自らの命を守る(避難計画 ハザードマップづくり)</li> </ul>	自主防災組織等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津波避難計画、ハザードマップづくり(一般の道路は、水没する可能性があるため、避難可能な道路・通路をはっきり指示する)(B-2-1)・地域別詳細ハザードマップの作成</li> <li>●ビル所有者等は、避難場所としてのビル開放に協力する(B-2-1)</li> <li>○緊急避難場所の整備</li> <li>●津波避難訓練の実施(特に夜間の避難訓練を実施する)(B-2-1)</li> <li>●ライフライン全滅時を想定した夜間避難訓練を行う(B-2-1)</li> <li>○家族、要援護者など協働(共同)して避難することの確認</li> <li>○声かけの申し合わせを近隣でしておく</li> <li>○有効な避難路が確保できない可能性の高い地域での対策を、県・市町村と協議する</li> <li>○地域特性に応じた避難対策と訓練</li> </ul>	県・市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難路の落橋、地滑りマップ(B-2-1)</li> <li>●避難路・避難場所の確保(B-2-1)</li> <li>●津波避難場所への夜間照明の設置(B-2-1)</li> <li>●避難場所として、公共施設だけでなく、ホテル・マンション・ビル等にも協力を依頼(B-2-1)</li> <li>●地震協力施設としてステッカー等明示する(B-2-1)</li> <li>●津波避難訓練の支援(B-2-1)</li> <li>○自主防災組織等の津波避難訓練等に対する指導・支援</li> </ul>
	地震発生時	県民	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震発生時の場所に沿った避難を想定し自らの命を守る(避難計画)</li> </ul>				
	応急・復旧段階						
	復興段階						